

山地災害危険地区
台帳情報データベース化 資料（案）

第 1.0 版

令和 4 年 3 月
林野庁国有林野部業務課

【改訂履歴】

版	更新日	改訂内容
第 1.0 版	2022 年 3 月	初版

目次

1. はじめに	1
2. 山地災害危険地区データベースの仕様.....	2
2.1. データベース構造	2
2.2. 山腹崩壊危険地区	3
2.2.1. 山腹崩壊危険地区テーブル	3
2.3. 崩壊土砂流出危険地区.....	10
2.3.1. 崩壊土砂流出危険地区テーブル	10
2.4. 地すべり危険地区	18
2.4.1. 地すべり危険地区テーブル	18
2.5. その他テーブル.....	26
2.5.1. メッシュテーブル	26
2.5.2. 地震調査テーブル	29
2.5.3. 落石調査テーブル	32
2.5.4. 治山事業実施状況テーブル	34
2.5.5. 実施経過（調査以降）テーブル	36
2.5.6. 災害歴テーブル	38
2.5.7. 噴火・泥流歴テーブル.....	40

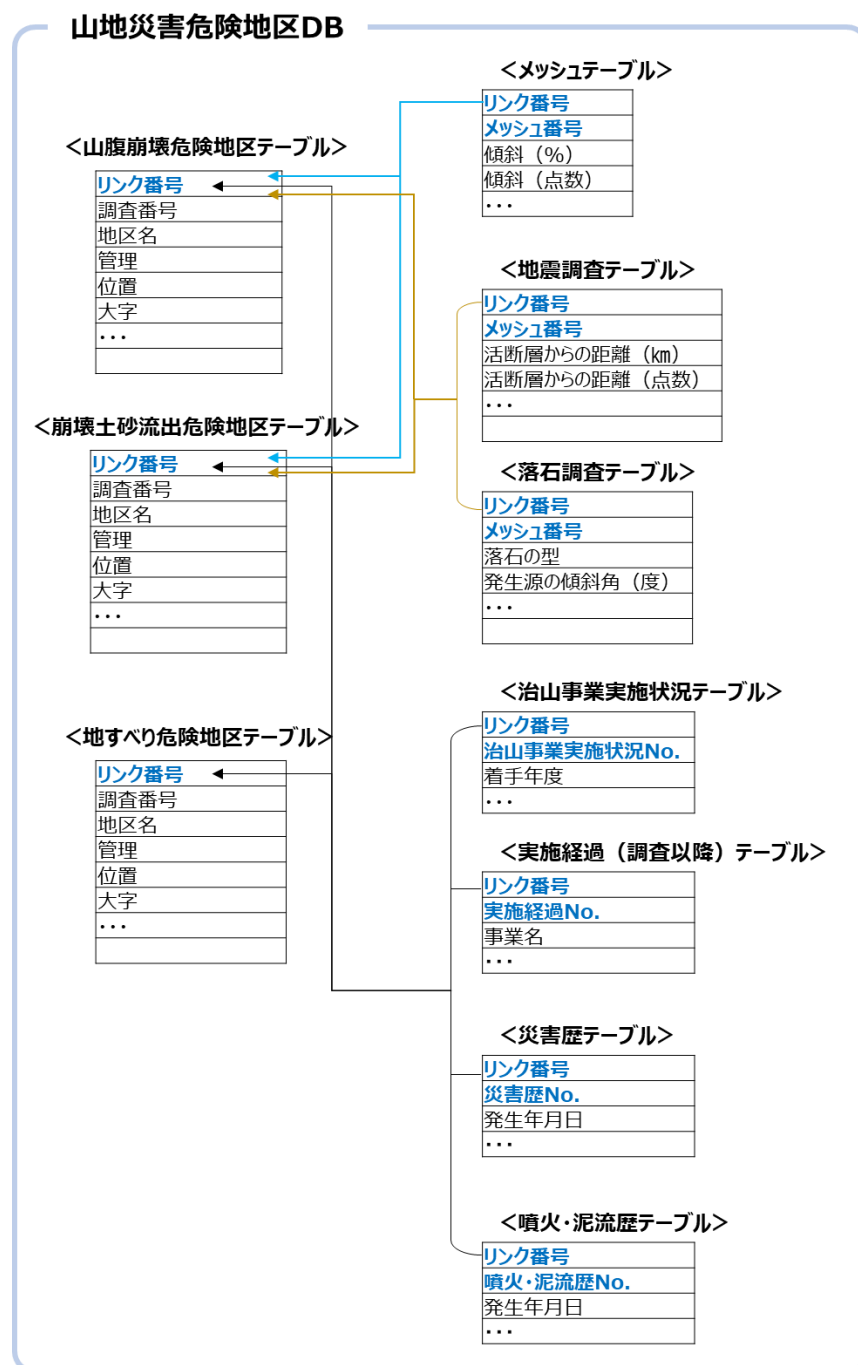
1. はじめに

本マニュアルは、林野庁 山地災害危険地区のデータベースを作成するためのデータベース構造を示した資料である。

2. 山地災害危険地区データベースの仕様

2.1. データベース構造

山地災害危険地区は、荒廃状況や災害の形態により「山腹崩壊危険地区」「地すべり危険地区」「崩壊土砂流出危険地区」の3種類に区分される。山地災害危険地区DBは、山腹崩壊危険地区、地すべり危険地区、崩壊土砂流出危険地区ごとにテーブルを持つ。



2.2.1. 山腹崩壊危険地区テーブル

(別冊様式)

様式1-1

山腹崩壊危険地区調査表

調査番号

204 - 1

地区名

大川原 (シチケダ沢)

位置

黒石 市

大川原

(調査年月日) 平成29年1月13日

字蛭貝沢国有林 (1005 林班)

(調査者)

(※) 森林アタククス

保安林等の指定

指定年月日

保安林種

指定区域面積

昭和46年3月29日

水源かん養保安林

1223 ha

地すべり防止区域の指定

所管省庁

指定年月日

指定区域面積

ha

地質

基岩の地質時代

岩石の種類

地質の走向・傾斜

風化の状況

断層の有無

破砕帯の有無

新第三紀

堆積岩(第四紀以外)

準んでいる

無

無

地質特性

傾斜(メッシュ内急崖の有無・地質区分第1・2類のみ)

地質の類別区分

第3類

メッシュ番号

地況

林況

点

荒廃状況等

補正加算点

合

保安林種

傾斜

断面形状

横断面形状

土層深

樹種

林種

林齢

点

崩壊地有

地

落

計

補正加算点

合

保安林種

1

60

46

凸

4

220

0

0.5

0

スギ

N

XI

22

72

28

0

28

100

水かん

2

70

46

凸

22

180

19

0.5

0

スギ

N

IX

25

112

31

0

31

143

水かん

3

40

13

凸

4

310

0

0.5

0

アカマツ

N

X

25

42

21

0

21

63

水かん

4

60

46

平

16

240

0

0.5

0

アカマツ

N

X

25

87

27

0

27

114

水かん

5

6

7

8

9

10

危険地区の判定(最高点メッシュ)

メッシュ番号

点数計

補正点数

補正加算点

合計

山腹崩壊危険度

2

112

0

31

0

143

a1

面積

調査地区の面積(調査メッシュの数)

(0)

危険地区の面積(100点以上のメッシュの数)

(0)

4 ha

3 ha

公共施設等の実態調査

人家

公用・公共用施設(道路を除く)

道路

その他

人数

種類

数量

種類

数量

種類

数量

国道

500m

調査結果

判定区分(最上位のもの)

国道

被災危険度

c2

他の法令による指定の有無

砂防指定地区

急傾斜地崩壊危険地区

土砂災害警戒区域

治山事業進捗状況

未着手(無)

治山事業以外の施設

無

備考(災害歴その他)

19年度の調査結果

山腹崩壊危険地区

地すべり危険地区

急傾斜地崩壊危険地区

危険地区

B

B

危険地区番号

204-1

危険度面積

山腹崩壊危険度

a1

被災危険度

c2

危険地区の危険度判定

B

調査区域

(0)

4 ha

100点以上のメッシュ数

(0)

3 ha

保安林等

有

他の法令等の指定

無

荒廃状況(崩壊)

無

治山事業進捗状況

無

図 2.2.1-1 山腹崩壊危険地区調査票の例

山腹崩壊危険地区テーブルの構造（テーブル定義）は、下表のとおり。

山腹崩壊危険地区テーブルのテーブル定義

項目名	主キー	重要項目	データ型	入力規則
リンク番号	●	●	数値型	
調査番号			文字型	自由入力
地区名		○	文字型	自由入力
管理			文字型	国有林、民有林、民有林直轄事業区域のいずれかを記入
位置		○	文字型	自由入力
大字		○	文字型	自由入力
字			文字型	自由入力
国有林名			文字型	自由入力
林班			文字型	数値入力
調査年月日			日付型	半角 9999/99/99形式)
調査者			文字型	自由入力
保安林等の指定年月日			日付型	半角 9999/99/99形式
保安林種			数値型	コード値入力
保安林種の指定区域面積			数値型	数値入力(単位:ha)
地すべり防止区域の所轄省庁			文字型	自由入力
地すべり防止区域の指定年月日			日付型	半角 9999/99/99形式
地すべり防止区域の指定区域面積			数値型	数値入力(単位:ha)
基岩の地質時代			文字型	自由入力
岩石の種類			文字型	自由入力
地質の走向			文字型	自由入力
風化の状況			文字型	自由入力
断層の有無			文字型	有、無のいずれかを記入
破碎帯の有無			文字型	有、無のいずれかを記入
地質特性			文字型	自由入力
傾斜(メッシュ内急崖の有無・地質区分第1類のみ)			文字型	自由入力
地質の類別区分			数値型	数値入力
メッシュ番号(危険地区の判定)			文字型	自由入力
山腹崩壊危険度			文字型	自由入力
調査地区の面積			数値型	数値入力(単位:ha)
(調査地区の面積)			数値型	数値入力(単位:ha)
危険地区の面積			数値型	数値入力(単位:ha)
(危険地区の面積)			数値型	数値入力(単位:ha)
人家数			数値型	数値入力(単位:戸)
工場数			数値型	数値入力(単位:戸)
旅館数			数値型	数値入力(単位:戸)
工場数(従業員数)			数値型	数値入力(単位:人)
旅館数(従業員数)			数値型	数値入力(単位:人)
人家他			数値型	数値入力(単位:戸)
学校			数値型	数値入力(単位:棟)
官公署			数値型	数値入力(単位:棟)
病院			数値型	数値入力(単位:棟)
不明			数値型	数値入力(単位:棟)
要配慮者利用施設			数値型	数値入力(単位:棟)
避難場所			数値型	数値入力(単位:棟)
他公施設			数値型	数値入力(単位:棟)
国道			数値型	数値入力(単位:m)
農道			数値型	数値入力(単位:m)
県道			数値型	数値入力(単位:m)
高速道			数値型	数値入力(単位:m)
市町村道			数値型	数値入力(単位:m)
道路他			数値型	数値入力(単位:m)
林道			数値型	数値入力(単位:m)
緊急輸送道路			数値型	数値入力(単位:m)
鉄道			数値型	数値入力
種類			文字型	自由入力
数量			数値型	数値入力
判定区分(最上位のもの)			文字型	自由入力
被災危険度			文字型	自由入力
砂防指定地区			文字型	該当する場合:○を記入
急傾斜地崩壊危険地区			文字型	該当する場合:○を記入
土砂災害警戒区域			文字型	該当する場合:○を記入
治山事業			文字型	概成、一部概成、未成、未着手のいずれかを記入
治山事業以外の施設			文字型	有、無のいずれかを記入
備考(災害歴その他)			文字型	自由入力
年度(前回調査結果)			文字型	自由入力
山腹崩壊危険地区(前回調査結果)			文字型	該当する場合:○を記入
地すべり崩壊危険地区(前回調査結果)			文字型	該当する場合:○を記入
崩壊土砂流出危険地区(前回調査結果)			文字型	該当する場合:○を記入
危険地区ではなかった(前回調査結果)			文字型	該当する場合:○を記入
前回調査結果			文字型	A、B、Cのいずれかを記入
保安林等			文字型	有、無のいずれかを記入
他の法令等の指定			文字型	有、無のいずれかを記入
荒廃状況			文字型	有、無のいずれかを記入

☆ 必須項目について●・○の対応は次のとおり。

●	必須項目 (台帳に記載がない場合は、担当者に確認を行い、入力すること)
○	テーブルの中で重要性が高く、入力が望まれる項目 (台帳に記載がない場合は、空欄でも問題ない。)

ア) リンク番号

リンク番号は、製品仕様書に準じて作成される山腹崩壊危険地区（GIS データ）と同じ番号を附番し、GIS データと紐づくこととする。

イ) 調査番号

調査票に記載されている調査番号を記入する。

ウ) 地区名

調査票に記載されている地区名を記入する。

エ) 管理

「国有林」、「民有林」、「民有林直轄事業区域」のいずれかを記入する。

オ) 位置・大字・字

台帳に記載されている位置情報を記入する。

カ) 国有林名・林班

調査票に記載されている国有林名・林班番号（例：「201」、「30-2」など）を記入する。

キ) 調査年月日

調査票に記載されている調査年月日を日付形式（半角 9999/99/99 形式）で記入する。

ク) 調査者

調査票に記載されている調査者を入力する。

ケ) 保安林等の指定年月日

調査票に記載されている保安林等の指定年月日を日付形式（半角 9999/99/99 形式）で記入する。

コ) 保安林種

調査票に記載されている保安林種を入力する。保安林種は、コード値（数値）入力とし、下表のとおり。保安林種コードは、現在国有林野情報管理システムにて運用されているものである。

保安林種コード

コード値	内容	コード値	内容
0	該当外	4201	水源かん養保安林見込み地
4001	水源かん養保安林	4202	土砂流出防備保安林見込み地
4002	土砂流出防備保安林	4203	土砂崩壊防備保安林見込み地
4003	土砂崩壊防備保安林	4204	飛砂防備保安林見込み地
4004	飛砂防備保安林	4205	防風保安林見込み地
4005	防風保安林	4206	水害防備保安林見込み地
4006	水害防備保安林	4207	潮害防備保安林見込み地
4007	潮害防備保安林	4208	干害防備保安林見込み地
4008	干害防備保安林	4209	防雪保安林見込み地
4009	防雪保安林	4210	防霧保安林見込み地
4010	防霧保安林	4211	なだれ防止保安林見込み地
4011	なだれ防止保安林	4212	落石防止保安林見込み地
4012	落石防止保安林	4213	防火保安林見込み地
4013	防火保安林	4214	魚つき保安林見込み地
4014	魚つき保安林	4215	航行目標保安林見込み地
4015	航行目標保安林	4216	保健保安林見込み地
4016	保健保安林	4217	風致保安林見込み地
4017	風致保安林		

サ) 保安林種の指定区域面積

調査票に記載されている保安林種の指定区域面積（ha）を記入する。

シ) 地すべり防止区域の指定の所轄省庁

調査票に記載されている地すべり防止区域の指定の所轄省庁を記入する。

ス) 地すべり防止区域の指定年月日

調査票に記載されている地すべり防止区域の指定年月日を日付形式（半角 9999/99/99 形式）で記入する。

セ) 地すべり防止区域の指定区域面積

調査票に記載されている地すべり防止区域の指定区域面積（ha）を記入する。

- ソ) 基岩の地質時代・岩石の種類・地質の走行・風化の状況・断層の有無・破碎帯の有無・地質特性・傾斜（メッシュ内急崖の有無・地質区分第1類のみ）・地質の類別区分

調査票に記載されている地質に関する情報を記入する。断層の有無・破碎帯の有無は、「有」または「無」のいずれかを入力する。

項目	入力例
地質の走行	北、北東、東、南東、南、南西、西、北西
風化の状況	非常に新鮮、新鮮、弱風化、中風化、強風化

- タ) メッシュ番号（危険地区の判定）

調査票に記載されている、危険度点数の合計が最高となったメッシュ番号を入力する。

- チ) 山腹崩壊危険度

調査票に記載されている山腹崩壊危険度を入力する。

- ツ) 調査地区の面積・（調査地区の面積）

調査票に記載されている調査地区の面積を入力する。「（調査地区の面積）」の項目には、面積の一部に所轄外の民有林または国有林を含む面積として調査票に記載されている値を入力する。

- テ) 危険地区の面積・（危険地区の面積）

調査票に記載されている危険地区の面積を入力する。「（危険地区の面積）」の項目には、面積の一部に所轄外の民有林または国有林を含む面積として調査票に記載されている値を入力する。

- ト) 人家数・工場数・旅館数・工場数(従業員数)・旅館数(従業員数)・人家他

調査票に記載されている公共施設等の実態調査の「人家」の内容を入力する。

- ナ) 学校・官公署・病院・不明・要配慮者利用施設・避難場所・他公施設

調査票に記載されている公共施設等の実態調査の「公用・公共施設」の内容を入力する。

- ニ) 国道・農道・県道・高速道・市町村道・道路他・林道・緊急輸送道路・道路他

調査票に記載されている公共施設等の実態調査の「道路」の内容を入力する。

ヌ) 鉄道

調査票に記載されている公共施設等の実態調査の「鉄道」の内容を入力する。

ネ) 種類・数量

調査票に記載されている、公共施設等の実態調査において、人家数、公用・公共施設、道路、鉄道に該当しない項目名とその数量を入力する。

ノ) 判定区分（最上位のもの）・被災危険度

調査票に記載されている公共施設等の実態調査の調査結果として、判定区分（最上位のもの）・被災危険度を入力する。

ハ) 砂防指定地区・急傾斜地崩壊危険地区・土砂災害警戒区域

調査票に記載されている他の法令による指定の有無を入力する。該当する危険地区に「○」を入力する。

ヒ) 治山事業・治山事業以外の施設

調査票に記載されている治山事業進捗状況を入力する。入力は、以下のリストから選択すること。

既成
一部既成
未成
未着手

フ) 備考（災害歴その他）

調査票に記載されている備考（災害歴その他）を入力する。

ヘ) 年度（前回調査結果）

調査票に記載されている前回調査した年度を記入。入力は、「平成 19」、「昭和 23」というように年度は省略して入力する。

- ホ) 山腹崩壊危険地区（前回調査結果）・地すべり崩壊危険地区（前回調査結果）・崩壊土砂流出危険地区（前回調査結果）・危険地区ではなかった（前回調査結果）

調査票に記載されている前回の調査結果を記入する。該当する危険地区に「○」を入力する。

- マ) 前回調査結果

調査票に記載されている前回の調査結果を「A」・「B」・「C」のいずれかで記入する。

- ミ) 危険地区の危険度判定

調査票に記載されている危険地区の危険度判定を記入する。

- ム) 保安林等・他の法令等の指定・荒廃状況

調査票に記載されている各項目の有無を記入する。「有」・「無」のいずれかを記入する。

2.3. 崩壊土砂流出危険地区

2.3.1. 崩壊土砂流出危険地区テーブル

崩壊土砂流出危険地区テーブルは、現行の崩壊土砂流出危険地区調査票（下図例）に記載されている「事業名」、「位置」などの項目を中心に構成する。

様式3 崩壊土砂流出危険地区調査表

調査番号	202 - 1	地区名	藤倉川	位置	弘前市 相馬 字萱沼国有林 (398°407林班)	(調査年月日) 平成29年1月16日 (調査者) (株)森林テクニクス												
調査地区選定の理由 崩壊土砂流出危険地区の指定を受けており、当該地区は指定区域を有し、又、当該地区は不安定な土砂が堆積しているため見直し調査を行う。																		
保有林等の指定		指定年月日	保安林種	指定区域面積	2049 ha													
地すべり防止区域の指定		所管省庁	指定年月日	指定区域面積	ha													
自然条件調査	山腹崩壊危険地区 荒廃																	
	地質の種類	傾斜	縦断形	横断形	土層深	林種	林齢	点数	補正点数	計	山腹崩壊危険度の有無							
	第3類	80	51	凸	4	120	22	1.5	7	L	KL1	22	106	0	28	134	a1	有
	地すべり危険地区																	
	危険地区番号	地区の時代分	地質の走向	変質風化	断層帯	地すべり	陥没	陥没	陥没	陥没	陥没	陥没	陥没	陥没	陥没	陥没	陥没	
	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	ラン	
	判定ランク計																	
	a	b	c	d														
	地すべり危険度																	
	地すべり活動の有無(地すべり活動a又はb)																	
無																		
崩壊土砂流出危険地区																		
危険度																		
a1 (火山)																		
a1																		
56																		
危険度の判定																		
113																		
面積																		
(0.00)																		
930.00 ha																		
平均渓流幅																		
15 m																		
流出区間延長																		
1700 m																		
危険地区面積																		
7.65 ha																		
公共施設等の実態調査																		
調査結果																		
判定区分(最上位のもの)																		
市道																		
被災危険度																		
c2																		
他の法令による指定の有無																		
砂防指定地区																		
急傾斜地崩壊危険地区																		
土砂災害警戒区域																		
備考(災害歴その他)																		
19年度の調査結果																		
山腹崩壊危険地区																		
地すべり危険地区																		
崩壊土砂流出危険地区																		
危険地区でなかった																		
C																		
治山事業進捗状況																		
未着手(無)																		
治山事業以外の施設																		
有																		
危険度判定表																		
危険地区番号						202-1												
崩壊土砂流出危険度						c1												
被災危険度						c2												
危険地区の危険度判定						C												
危険地区面積						(0.00)												
7.65 ha																		
保安林等						有												
地すべり防止区域指定						無												
他の法令等の指定						有												
荒廃状況(崩壊又は地すべり)						有												
治山事業進捗状況(治山、地すべり防止)						無												

崩壊土砂流出危険地区テーブルの構造（テーブル定義）は、下表のとおり。

崩壊土砂流出危険地区テーブルのテーブル定義

項目名	主キー	重要項目	データ型	入力規則	備考
リンク番号	●	●	数値型		
調査番号			文字型	自由入力	
地区名		○	文字型	自由入力	
管理			文字型	国有林、民有林、民有林直轄事業区域のいずれかを記入	
位置		○	文字型	自由入力	
大字		○	文字型	自由入力	
字			文字型	自由入力	
国有林名			文字型	自由入力	
林班			文字型	数値入力	
調査年月日			日付型	半角 9999/99/99形式	
調査者			文字型	自由入力	
調査地区選定の理由			文字型	自由入力	
保安林等の指定年月日			日付型	半角 9999/99/99形式	
保安林種			数値型	コード入力	保安林種コード
保安林種の指定区域面積			数値型	数値入力(単位:ha)	
地すべり防止区域の所轄省庁			文字型	自由入力	
地すべり防止区域の指定年月日			日付型	半角 9999/99/99形式	
地すべり防止区域の指定区域面積			数値型	数値入力(単位:ha)	
地質の種類			文字型	自由入力	
山腹崩壊危険度			文字型	自由入力	
崩壊地の有無			文字型	有、無のいずれかを記入	
危険地区の番号			文字型	自由入力	
地質時代の時代区分			文字型	自由入力	

崩壊土砂流出危険地区テーブルのテーブル定義（続き）

項目名	主キー	重要項目	データ型	入力規則	備考
地質の走向(ランク)			文字型	自由入力	
岩石の変質又は風化の状況(ランク)			文字型	自由入力	
断層破砕帯(ランク)			文字型	自由入力	
地すべり土質(ランク)			文字型	自由入力	
滑落崖陥没・隆起亀裂(ランク)			文字型	自由入力	
沼地・湿原地下水湧出(ランク)			文字型	自由入力	
立木の傾倒等(ランク)			文字型	自由入力	
地すべり活動(ランク)			文字型	自由入力	
判定ランク計(a)			文字型	自由入力	
判定ランク計(b)			文字型	自由入力	
判定ランク計(c)			文字型	自由入力	
判定ランク計(d)			文字型	自由入力	
地すべり危険度			文字型	自由入力	
地すべり有無(地すべり活動a又はb)			文字型	自由入力	
危険度(荒廃発生源)			文字型	自由入力	
点数(荒廃発生源)			数値型	数値入力	
混入率(転石の混入割合)			数値型	数値入力(単位: %)	
点数(転石の混入割合)			数値型	数値入力	
荒廃発生源直下の溪床勾配			数値型	数値入力	
荒廃発生源直下の点数			数値型	数値入力	
平均溪流幅			数値型	数値入力(単位: m)	
平均溪流幅の延長			数値型	数値入力(単位: m)	
平均溪流幅の点数			数値型	数値入力	
平均溪床勾配の高低差			数値型	数値入力(単位: m)	
平均溪床勾配			数値型	数値入力	
平均溪床勾配の点数			数値型	数値入力	
点数計(危険度の判定)			数値型	数値入力	
補正加算点(危険度の判定)			数値型	数値入力	
総点数(危険度の判定)			数値型	数値入力	
崩壊土砂流出危険度(調査結果)			文字型	自由入力	
溪流の集水面積(調査結果)			数値型	数値入力(単位: ha)	
(溪流の集水面積)			数値型	数値入力(単位: ha)	
平均溪流幅(調査結果)			数値型	数値入力(単位: m)	
流水区間延長(調査結果)			数値型	数値入力(単位: m)	
(流水区間延長)			数値型	数値入力(単位: m)	
危険地区面積(調査結果)			数値型	数値入力(単位: ha)	
(危険地区面積)			数値型	数値入力(単位: ha)	
人家数			数値型	数値入力(単位: 戸)	
工場数			数値型	数値入力(単位: 戸)	
旅館数			数値型	数値入力(単位: 戸)	
工場数(従業員数)			数値型	数値入力(単位: 人)	
旅館数(従業員数)			数値型	数値入力(単位: 人)	
人家他			数値型	数値入力(単位: 戸)	
学校			数値型	数値入力(単位: 棟)	
官公署			数値型	数値入力(単位: 棟)	
病院			数値型	数値入力(単位: 棟)	
不明			数値型	数値入力(単位: 棟)	
要配慮者利用施設			数値型	数値入力(単位: 棟)	
避難場所			数値型	数値入力(単位: 棟)	
他公施設			数値型	数値入力(単位: 棟)	
国道			数値型	数値入力(単位: m)	
農道			数値型	数値入力(単位: m)	
県道			数値型	数値入力(単位: m)	
高速道			数値型	数値入力(単位: m)	
市町村道			数値型	数値入力(単位: m)	
道路他			数値型	数値入力(単位: m)	
林道			数値型	数値入力(単位: m)	
緊急輸送道路			数値型	数値入力(単位: m)	
鉄道			数値型	数値入力	
種類			文字型	自由入力	
数量			数値型	数値入力	
判定区分(最上位のもの)			文字型	自由入力	
被災危険度			文字型	自由入力	
砂防指定地区			文字型	該当する場合: ○を記入	
急傾斜地崩壊危険地区			文字型	該当する場合: ○を記入	
土砂災害警戒区域			文字型	該当する場合: ○を記入	
治山事業			文字型	概成、一部概成、未成、未着手のいずれかを記入	
治山事業以外の施設			文字型	有、無のいずれかを記入	
備考(災害歴その他)			文字型	自由入力	
年度(前回調査結果)			文字型	自由入力	
山腹崩壊危険地区(前回調査結果)			文字型	該当する場合: ○を記入	
地すべり崩壊危険地区(前回調査結果)			文字型	該当する場合: ○を記入	
崩壊土砂流出危険地区(前回調査結果)			文字型	該当する場合: ○を記入	
危険地区ではなかった(前回調査結果)			文字型	該当する場合: ○を記入	
前回調査結果			文字型	A、B、Cのいずれかを記入	
危険地区の危険度判定			文字型	自由入力	
保安林等			文字型	有、無のいずれかを記入	
地すべり防止区域指定			文字型	有、無のいずれかを記入	
他の法令等の指定			文字型	有、無のいずれかを記入	
荒廃状況(崩壊又は地すべり)			文字型	有、無のいずれかを記入	

◇ 必須項目について●・○の対応は次のとおり。

●	必須項目 (台帳に記載がない場合は、担当者に確認を行い、入力すること)
○	テーブルの中で重要性が高く、入力が望まれる項目 (台帳に記載がない場合は、空欄でも問題ない。)

ア) リンク番号

リンク番号は、製品仕様書に準じて作成される山腹崩壊危険地区（GIS データ）と同じ番号を附番し、GIS データと紐づくこととする。

イ) 調査番号

調査票に記載されている調査番号を記入する。

ウ) 地区名

調査票に記載されている地区名を記入する。

エ) 管理

「国有林」、「民有林」、「民有林直轄事業区域」のいずれかを記入する。

オ) 位置・大字・字

台帳に記載されている位置情報を記入する。

カ) 国有林名・林班

調査票に記載されている国有林名・林班番号（例：「201」、「30-2」など）を記入する。

キ) 調査年月日

調査票に記載されている調査年月日を日付形式（半角 9999/99/99 形式）で記入する。

ク) 調査者

調査票に記載されている調査者を入力する。

ケ) 調査地区選定の理由

調査票に記載されている調査地区選定の理由を入力する。

コ) 保安林等の指定年月日

調査票に記載されている保安林等の指定年月日を日付形式（半角 9999/99/99 形式）で記入する。

サ) 保安林種

調査票に記載されている保安林種を入力する。保安林種は、コード値（数値）入力とし、下表のとおり。保安林種コードは、現在国有林野情報管理システムにて運用されているものである。

保安林種コード

コード値	内容	コード値	内容
0	該当外	4201	水源かん養保安林見込み地
4001	水源かん養保安林	4202	土砂流出防備保安林見込み地
4002	土砂流出防備保安林	4203	土砂崩壊防備保安林見込み地
4003	土砂崩壊防備保安林	4204	飛砂防備保安林見込み地
4004	飛砂防備保安林	4205	防風保安林見込み地
4005	防風保安林	4206	水害防備保安林見込み地
4006	水害防備保安林	4207	潮害防備保安林見込み地
4007	潮害防備保安林	4208	干害防備保安林見込み地
4008	干害防備保安林	4209	防雪保安林見込み地
4009	防雪保安林	4210	防霧保安林見込み地
4010	防霧保安林	4211	なだれ防止保安林見込み地
4011	なだれ防止保安林	4212	落石防止保安林見込み地
4012	落石防止保安林	4213	防火保安林見込み地
4013	防火保安林	4214	魚つき保安林見込み地
4014	魚つき保安林	4215	航行目標保安林見込み地
4015	航行目標保安林	4216	保健保安林見込み地
4016	保健保安林	4217	風致保安林見込み地
4017	風致保安林		

シ) 保安林種の指定区域面積

調査票に記載されている保安林種の指定区域面積（ha）を記入する。

ス) 地すべり防止区域の指定の所轄省庁

調査票に記載されている地すべり防止区域の指定の所轄省庁を記入する。

セ) 地すべり防止区域の指定年月日

調査票に記載されている地すべり防止区域の指定年月日を日付形式（半角 9999/99/99 形式）で記入する。

ソ) 地すべり防止区域の指定区域面積

調査票に記載されている地すべり防止区域の指定区域面積（ha）を記入する。

タ) 地質の種別

調査票に記載されている地質の種別（例：第3類と記載がある場合、「3」）を記入する。

チ) 山腹崩壊危険度・崩壊地の有無

調査票に記載されている山腹崩壊危険度・崩壊地の有無を記入する。

ツ) 危険地区の番号

調査票に記載されている危険地区の番号を記入する。

テ) 地質の時代区分

調査票に記載されている地質の時代区分を記入する。

ト) 地層の走向（ランク）・岩石の変質・風化（ランク）・断層破碎帯（ランク）・地すべり土質（ランク）・滑落崖陥没,隆起亀裂（ランク）・沼地,湿原地下水湧出（ランク）・立木の傾倒等（ランク）・地すべり活動（ランク）

調査票に記載されている各項目のランクを記入する。

ナ) 判定ランク計 (a) ・判定ランク計 (b) ・判定ランク計 (c) ・判定ランク計 (d)

調査票に記載されている判定ランク計 (a) ～ (d) を記入する。

ニ) 地すべり危険度

調査票に記載されている地すべり危険度を記入する。

ヌ) 地すべり有無（地すべり活動a又はb）

調査票に記載されている地すべり有無の情報を記入する。

ネ) 危険度（荒廃発生源）・点数（荒廃発生源）

調査票に記載されている荒廃発生源の危険度と点数を入力する。

ノ) 混入率（転石の混入割合）・点数（転石の混入割合）

調査票に記載されている転石の混入に関する情報を入力する。

ハ) 荒廃発生源直下の溪床勾配・荒廃発生源直下の点数

調査票に記載されている荒廃発生源直下に関する情報を入力する。

ヒ) 平均溪流幅・平均溪流幅の延長・平均溪流幅の点数

調査票に記載されている平均溪流幅に関する情報を入力する。

フ) 平均溪床勾配の高低差・平均溪床勾配・平均溪床勾配の点数

調査票に記載されている平均溪床勾配に関する情報を入力する。

ヘ) 点数計（危険度の判定）・補正加算点（危険度の判定）・総点数（危険度の判定）

調査票に記載されている危険度の判定における点数計・補正加算点・総点数を入力する。

ホ) 崩壊土砂流出危険度（調査結果）

調査票に記載されている調査結果における崩壊土砂流出危険度を入力する。

マ) 溪流の集水面積（調査結果）・（溪流の集水面積）・平均溪流幅（調査結果）・流水区間延長（調査結果）・（流水区間延長）・危険地区面積（調査結果）・（危険地区面積）

調査票に記載されている溪流の集水面積・平均溪流幅・流水区間延長・危険地区面積を入力する。

「（溪流の集水面積）・（流水区間延長）・（危険地区の面積）」の項目には、面積の一部に所轄外の民有林または国有林を含む面積として調査票に記載されている値を入力する。

ミ) 人家数・工場数・旅館数・工場数(従業員数)・旅館数(従業員数)・人家他

調査票に記載される公共施設等の実態調査の「人家」の内容を入力すること。

ム) 学校・官公署・病院・不明・要配慮者利用施設・避難場所・他公施設

調査票に記載される公共施設等の実態調査の「公用・公共施設」の内容を入力すること。

メ) 国道・農道・県道・高速道・市町村道・道路他・林道・緊急輸送道路・道路他・

調査票に記載される公共施設等の実態調査の「道路（m）」の内容を入力する。

モ) 鉄道

調査票に記載される公共施設等の実態調査の「鉄道」の内容を入力する。

ヤ) 種類・数量

調査票に記載されている、公共施設等の実態調査において、人家数、公用・公共施設、道路、鉄道に該当しない項目名とその数量を入力する。

ユ) 判定区分（最上位のもの）・被災危険度

調査票に記載される公共施設等の実態調査の調査結果として、判定区分（最上位のもの）・被災危険度を入力する。

ヨ) 砂防指定地区・急傾斜地崩壊危険地区・土砂災害警戒区域

調査票に記載される他の法令による指定の有無を入力する。該当する危険地区に「○」を入力する。

ラ) 治山事業・治山事業以外の施設

調査票に記載される治山事業進捗状況を入力する。入力は、以下のリストから選択すること。

既成
一部既成
未成
未着手

リ) 備考（災害歴その他）

調査票に記載される備考（災害歴その他）を入力する。

ル) 年度（前回調査結果）

調査票に記載されている前回調査した年度（例：「平成 6」、「昭和 23」）を記入する。

レ) 山腹崩壊危険地区（前回調査結果）・地すべり崩壊危険地区（前回調査結果）・崩壊土砂流出危険地区（前回調査結果）・危険地区ではなかった（前回調査結果）

調査票に記載されている前回の調査結果を記入する。該当する危険地区に「○」を入力する。

ロ) 前回調査結果

調査票に記載されている前回の調査結果を「A」・「B」・「C」のいずれかで記入する。

ワ) 危険地区の危険度判定

調査票に記載されている危険地区の危険度判定を記入する。

ヲ) 保安林等・地すべり防止区域指定・他の法令等の指定・荒廃状況（崩壊又は地すべり）

調査票に記載されている各項目の有無を記入する。「有」・「無」のいずれかを記入する。

2.4. 地すべり危険地区

2.4.1. 地すべり危険地区テーブル

地すべり危険地区テーブルは、現行の地すべり危険地区調査票（下図例）に記載されている「事業名」、「位置」などの項目を中心に構成する

様式2 地すべり危険地区調査表

調査番号	202	1	地区名	関ヶ平	位置	弘前市	(調査年月日) 平成29年1月24日			
						関ヶ平国有林	(357 林班)			
危険地区選定の理由 地すべり発生のおそれ										
保安林等の指定		指定年月日	保安林種	指定区域面積						
		昭和46年1月9日	水源かん養保安林	2.169	ha					
地すべり防止区域の指定		所管省庁	指定年月日	指定区域面積						
					ha					
自然条件調査	気象	平均年降雨量	1555	mm	最大日雨量	63	mm	最大積雪深	150	cm
	地質	地質時代	新第三紀			地層名	火山性			
		岩石の種類	火山岩			特記事項				
		判定項目	危険度ランク							
	地況	地層の走向	a	b	c	d				
		岩石の変質又は風化の状況				著しい	○	ある		
		断層及び破砕帯				○	破砕帯がある	断層がある		
	植生	表層土の土質				○	粘性土			
		滑落崖、亀裂、陥没又は隆起				○	3種類ある	2種類ある	1種類ある	
	調査結果	沼地、湿地の規則的な配列				○	3種類ある	○	2種類ある	1種類ある
地すべり活動		移動している	○	過去に移動した						
地すべり危険度の判定(危険度ランク計)		a	b	c	d	地すべり危険度				
		0	2	4	2	a1				
面積		地すべり区域		誘発助長区域		面積計				
		(0)		(0)		(0)				
		1 ha		4 ha		5 ha				

公共施設等の実施調査

調査結果	判定区分(最上位のもの)	市道	被災危険度	c2
------	--------------	----	-------	----

他の法令による指定の有無

☐ 砂防指定地区

☐ 急傾斜地崩壊危険地区

☐ 土砂災害警戒区域

備考(災害歴その他)

H17.9豪雨

19年度の調査結果

☐ 山腹崩壊危険地区

☐ 地すべり危険地区

☐ 崩壊土砂流出危険地区

☐ 危険地区でなかった

B

治山事業進捗状況	着手済(一部概成)
治山事業以外の施設	無
危険度判定表	
危険地区番号	202-1
地すべり危険度	a1
被災危険度	c2
危険地区の危険度判定	B
危険地区面積	(0)
	5 ha
保安林等	有
地すべり防止区域指定	無
他の法令等の指定	有
荒廃状況(地すべり他)	有
治山事業進捗状況(治山、地すべり防止)	一部概成

地すべり危険地区テーブルの構造（テーブル定義）は、下表のとおり。

地すべり危険地区テーブルのテーブル定義

項目名	主キー	重要項目	データ型	入力規則	備考
リンク番号	●	●	数値型		
調査番号			文字型	自由入力	
地区名		○	文字型	自由入力	
管理			文字型	国有林、民有林、民有林直轄事業区域のいずれかを記入	
位置		○	文字型	自由入力	
大字		○	文字型	自由入力	
字			文字型	自由入力	
国有林名			文字型	自由入力	
林班			文字型	自由入力	
調査年月日			日付型	半角 9999/99/99形式	
調査者			文字型	自由入力	
調査地区選定の理由			文字型	自由入力	
保安林等の指定年月日			日付型	半角 9999/99/99形式	
保安林種			数値型	コード値入力	保安林種コード
保安林種の指定区域面積			数値型	数値入力(単位:ha)	
地すべり防止区域の所轄省庁			文字型	自由入力	
地すべり防止区域の指定年月日			日付型	半角 9999/99/99形式	
地すべり防止区域の指定区域面積			数値型	数値入力(単位:ha)	
年平均降雨量			数値型	数値入力(単位:mm)	
最大日雨量			数値型	数値入力(単位:mm)	
最大積雪深			数値型	数値入力(単位:cm)	
地質時代			文字型	自由入力	
地層名			文字型	自由入力	
岩石の種類			文字型	自由入力	
特記事項			文字型	自由入力	

地すべり危険地区テーブルのテーブル定義（続き）

項目名	主キー	重要項目	データ型	入力規則	備考
地質の走向(d)			文字型	自由入力	
岩石の変質又は風化の状況(c)			文字型	自由入力	
岩石の変質又は風化の状況(d)			文字型	自由入力	
断層及び破砕帯(c)			文字型	自由入力	
断層及び破砕帯(d)			文字型	自由入力	
表層土の土質(c)			文字型	自由入力	
滑落崖、亀裂、陥没又は隆起(b)			文字型	自由入力	
滑落崖、亀裂、陥没又は隆起(c)			文字型	自由入力	
滑落崖、亀裂、陥没又は隆起(d)			文字型	自由入力	
沼地、湿地の規則的な配列、異常な地下水の湧出(b)			文字型	自由入力	
沼地、湿地の規則的な配列、異常な地下水の湧出(c)			文字型	自由入力	
沼地、湿地の規則的な配列、異常な地下水の湧出(d)			文字型	自由入力	
立木の傾倒等の異常(a)			文字型	自由入力	
立木の傾倒等の異常(b)			文字型	自由入力	
地すべり活動(a)			文字型	自由入力	
地すべり活動(b)			文字型	自由入力	
地すべり危険度の判定(a)			文字型	自由入力	
地すべり危険度の判定(b)			文字型	自由入力	
地すべり危険度の判定(c)			文字型	自由入力	
地すべり危険度の判定(d)			文字型	自由入力	
地すべり危険度			文字型	自由入力	
地すべり区域の面積			数値型	数値入力(単位:ha)	
(地すべり区域の面積)			数値型	数値入力(単位:ha)	
誘発助長区域の面積			数値型	数値入力(単位:ha)	
(誘発助長区域の面積)			数値型	数値入力(単位:ha)	
面積計			数値型	数値入力(単位:ha)	
(面積計)			数値型	数値入力(単位:ha)	
人家数			数値型	数値入力(単位:戸)	
工場数			数値型	数値入力(単位:戸)	
旅館数			数値型	数値入力(単位:戸)	
工場数(従業員数)			数値型	数値入力(単位:人)	
旅館数(従業員数)			数値型	数値入力(単位:人)	
人家他			数値型	数値入力(単位:戸)	
学校			数値型	数値入力(単位:棟)	
官公署			数値型	数値入力(単位:棟)	
病院			数値型	数値入力(単位:棟)	
不明			数値型	数値入力(単位:棟)	
要配慮者利用施設			数値型	数値入力(単位:棟)	
避難場所			数値型	数値入力(単位:棟)	
他公施設			数値型	数値入力(単位:棟)	
国道			数値型	数値入力(単位:m)	
農道			数値型	数値入力(単位:m)	
県道			数値型	数値入力(単位:m)	
高速道			数値型	数値入力(単位:m)	
市町村道			数値型	数値入力(単位:m)	
道路他			数値型	数値入力(単位:m)	
林道			数値型	数値入力(単位:m)	
緊急輸送道路			数値型	数値入力(単位:m)	
鉄道			数値型	数値入力	
種類			文字型	自由入力	
数量			数値型	数値入力	
判定区分(最上位のもの)			文字型	自由入力	
被災危険度			文字型	自由入力	
砂防指定地区			文字型	該当する場合:○を記入	
急傾斜地崩壊危険地区			文字型	該当する場合:○を記入	
土砂災害警戒区域			文字型	該当する場合:○を記入	
治山事業			文字型	概成、一部概成、未成、未着手のいずれかを記入	
治山事業以外の施設			文字型	有、無のいずれかを記入	
備考(災害歴その他)			文字型	自由入力	
年度(前回調査結果)			文字型	自由入力	
山腹崩壊危険地区(前回調査結果)			文字型	該当する場合:○を記入	
地すべり崩壊危険地区(前回調査結果)			文字型	該当する場合:○を記入	
崩壊土砂流出危険地区(前回調査結果)			文字型	該当する場合:○を記入	
危険地区ではなかった(前回調査結果)			文字型	該当する場合:○を記入	
前回調査結果			文字型	A、B、Cのいずれかを記入	
危険地区の危険度判定			文字型	自由入力	
保安林等			文字型	有、無のいずれかを記入	
地すべり防止区域指定			文字型	有、無のいずれかを記入	
他の法令等の指定			文字型	有、無のいずれかを記入	
荒廃状況(崩壊又は地すべり)			文字型	有、無のいずれかを記入	

☆ 必須項目について●・○の対応は次のとおり。

●	必須項目 (台帳に記載がない場合は、担当者に確認を行い、入力すること)
○	テーブルの中で重要性が高く、入力が望まれる項目 (台帳に記載がない場合は、空欄でも問題ない。)

ア) リンク番号

リンク番号は、製品仕様書に準じて作成される山腹崩壊危険地区（GIS データ）と同じ番号を附番し、GIS データと紐づくこととする。

イ) 調査番号

調査票に記載されている調査番号を記入する。

ウ) 地区名

調査票に記載されている地区名を記入する。

エ) 管理

「国有林」、「民有林」、「民有林直轄事業区域」のいずれかを記入する。

オ) 位置・大字・字

台帳に記載されている位置情報を記入する。

カ) 国有林名・林班

調査票に記載されている国有林名・林班番号を記入する。

キ) 調査年月日

調査票に記載されている調査年月日を日付形式（半角 9999/99/99 形式）で記入する。

ク) 調査者

調査票に記載されている調査者を入力する。

ケ) 調査地区選定の理由

調査票に記載されている調査地区選定の理由を入力する。

コ) 保安林等の指定年月日

調査票に記載されている保安林等の指定年月日を日付形式（半角 9999/99/99 形式）で記入する。

サ) 保安林種

調査票に記載されている保安林種を入力する。保安林種は、コード値（数値）入力とし、下表のとおり。保安林種コードは、現在国有林野情報管理システムにて運用されているものである。

保安林種コード

コード値	内容	コード値	内容
0	該当外	4201	水源かん養保安林見込み地
4001	水源かん養保安林	4202	土砂流出防備保安林見込み地
4002	土砂流出防備保安林	4203	土砂崩壊防備保安林見込み地
4003	土砂崩壊防備保安林	4204	飛砂防備保安林見込み地
4004	飛砂防備保安林	4205	防風保安林見込み地
4005	防風保安林	4206	水害防備保安林見込み地
4006	水害防備保安林	4207	潮害防備保安林見込み地
4007	潮害防備保安林	4208	干害防備保安林見込み地
4008	干害防備保安林	4209	防雪保安林見込み地
4009	防雪保安林	4210	防霧保安林見込み地
4010	防霧保安林	4211	なだれ防止保安林見込み地
4011	なだれ防止保安林	4212	落石防止保安林見込み地
4012	落石防止保安林	4213	防火保安林見込み地
4013	防火保安林	4214	魚つき保安林見込み地
4014	魚つき保安林	4215	航行目標保安林見込み地
4015	航行目標保安林	4216	保健保安林見込み地
4016	保健保安林	4217	風致保安林見込み地
4017	風致保安林		

シ) 保安林種の指定区域面積

調査票に記載されている保安林種の指定区域面積（ha）を記入する。

ス) 地すべり防止区域の指定の所轄省庁

調査票に記載されている地すべり防止区域の指定の所轄省庁を記入する。

セ) 地すべり防止区域の指定年月日

調査票に記載されている地すべり防止区域の指定年月日を日付形式（半角 9999/99/99 形式）で記入する。

ソ) 地すべり防止区域の指定区域面積

調査票に記載されている地すべり防止区域の指定区域面積（ha）を記入する。

タ) 年平均降雨量・最大日雨量・最大積雪深

調査票に記載されている気象情報を記入する。

チ) 地質時代・地層名・岩石の種類・特記事項

調査票に記載されている地質に関する情報を記入する。

ツ) 地層の走向（d）

調査票に記載されている地質の走行に関する情報を記入する。

テ) 岩石の変質又は風化の状況（c）・岩石の変質又は風化の状況（d）

調査票に記載されている岩石の変質又は風化の状況を記入する。

ト) 断層及び破碎帯（c）・断層及び破碎帯（d）

調査票に記載されている断層及び破碎帯の状況を記入する。

ナ) 表層土の土質（c）

調査票に記載されている表層土の土質を記入する。

ニ) 滑落崖,亀裂,陥没又は隆起（b）・滑落崖,亀裂,陥没又は隆起（c）・滑落崖,亀裂,陥没又は隆起（d）

調査票に記載されている滑落崖、亀裂、陥没又は隆起の情報を記入する。

- ヌ) 沼地,湿地の規則的な配列,異常な地下水の湧出 (b) ・沼地,湿地の規則的な配列,異常な地下水の湧出 (c) ・沼地,湿地の規則的な配列,異常な地下水の湧出 (d)

調査票に記載されている沼地、湿地の規則的な配列、異常な地下水の湧出の情報を記入する。

- ネ) 立木の傾倒等の異常 (a) ・立木の傾倒等の異常 (c)

調査票に記載されている立木の傾倒等の異常の情報を記入する。

- ノ) 地すべり活動 (a) ・地すべり活動 (b)

調査票に記載されている地すべり活動の情報を記入する。

- ハ) 地すべり危険度の判定 (a) 、地すべり危険度の判定 (b) 、地すべり危険度の判定 (c) 、地すべり危険度の判定 (d)

調査票に記載されている調査結果における地すべり危険度の判定（危険度ランク計）を記入する。

- ヒ) 地すべり危険度

調査票に記載されている調査結果における地すべり危険度を記入する。

- フ) 地すべり区域の面積 ・（地すべり区域の面積） ・誘発助長区域の面積 ・（誘発助長区域の面積） ・面積計 ・（面積計）

調査票に記載されている調査結果における地すべり区域および誘発助長地域の面積をそれぞれ入力する。

「（地すべり区域の面積） ・（誘発助長区域の面積） ・（面積計）」の項目には、面積の一部に所轄外の民有林または国有林を含む面積として調査票に記載されている値を入力する。

- ヘ) 人家数 ・工場数 ・旅館数 ・工場数(従業員数) ・旅館数(従業員数) ・人家他

調査票に記載される公共施設等の実態調査の「人家」の内容を入力すること。

- ホ) 学校 ・官公署 ・病院 ・不明 ・要配慮者利用施設 ・避難場所 ・他公施設

調査票に記載される公共施設等の実態調査の「公用 ・公共施設」の内容を入力すること。

マ) 国道・農道・県道・高速道・市町村道・道路他・林道・緊急輸送道路・道路他・

調査票に記載される公共施設等の実態調査の「道路」の内容を入力する。

ミ) 鉄道

調査票に記載される公共施設等の実態調査の「鉄道」の内容を入力する。

ム) 種類・数量

調査票に記載されている、公共施設等の実態調査において、人家数、公用・公共施設、道路、鉄道に該当しない項目名とその数量を入力する。

メ) 判定区分（最上位のもの）・被災危険度

調査票に記載される公共施設等の実態調査の調査結果として、判定区分（最上位のもの）・被災危険度を入力する。

モ) 砂防指定地区・急傾斜地崩壊危険地区・土砂災害警戒区域

調査票に記載される他の法令による指定の有無を入力する。該当する危険地区に「○」を入力する。

ヤ) 治山事業・治山事業以外の施設

調査票に記載される治山事業進捗状況を入力する。入力は、以下のリストから選択すること。

既成
一部既成
未成
未着手

ユ) 備考（災害歴その他）

調査票に記載される備考（災害歴その他）を入力する。

ヨ) 年度（前回調査結果）

調査票に記載されている前回調査した年度を記入。入力は、「平成 19」、「昭和 23」というように年度は省略して入力する。

- ラ) 山腹崩壊危険地区（前回調査結果）・地すべり崩壊危険地区（前回調査結果）・崩壊土砂流出危険地区（前回調査結果）・危険地区ではなかった（前回調査結果）

調査票に記載されている前回の調査結果を記入する。該当する危険地区に「○」を入力する。

- リ) 前回調査結果

調査票に記載されている前回の調査結果を「A」・「B」・「C」のいずれかで記入する。

- ル) 危険地区の危険度判定

調査票に記載されている危険地区の危険度判定を記入する。

- レ) 保安林等・地すべり防止区域指定・他の法令等の指定・荒廃状況（崩壊又は地すべり）

調査票に記載されている各項目の有無を記入する。「有」・「無」のいずれかを記入する。

◇ 必須項目について●・○の対応は次のとおり。

●	必須項目 (台帳に記載がない場合は、担当者に確認を行い、入力すること)
○	テーブルの中で重要性が高く、入力が望まれる項目 (台帳に記載がない場合は、空欄でも問題ない。)

ア) リンク番号

山腹崩壊危険地区テーブルのリンク番号と同じ番号を入力する。

イ) メッシュ番号

メッシュ情報の記載順に1から番号を附番する。

ウ) 傾斜(%)・傾斜(点数)

調査票に記載された地況におけるメッシュごとの傾斜の内容を入力する。

エ) 縦断面形(形)・縦断面形(点数)

調査票に記載された地況におけるメッシュごとの縦断面形情報の内容を入力する。

オ) 横断図形(度)・横断図形(点数)

調査票に記載された地況におけるメッシュごとの横断図形情報を入力する。

カ) 土層深(m)・土層深(点数)

調査票に記載された地況におけるメッシュごとの土層深情報を入力する。

キ) 樹種(林況)・N等(林種)・齢級(林齢)・点数(林齢)

調査票に記載されたメッシュごとの林況内容を入力する。

ク) 点数計

調査票に記載されたメッシュごとの点数計を入力する。

ケ) 崩壊地の有無・崩壊地補正点・地震(荒廃状況等)、落石(荒廃状況等)

調査票に記載されたメッシュごとの荒廃状況等を入力する。

コ) 計・補正加算点・合計

調査票に記載されたメッシュごとの計・補正加算点・合計を入力する。

サ) 保安林種（メッシュ）

台帳に記載されているメッシュごとの保安林情報を入力する。保安林種は、コード値（数値）入力とし、下表のとおり。保安林種コードは、現在国有林野情報管理システムにて運用されているものである。

保安林種コード

コード値	内容	コード値	内容
0	該当外	4201	水源かん養保安林見込み地
4001	水源かん養保安林	4202	土砂流出防備保安林見込み地
4002	土砂流出防備保安林	4203	土砂崩壊防備保安林見込み地
4003	土砂崩壊防備保安林	4204	飛砂防備保安林見込み地
4004	飛砂防備保安林	4205	防風保安林見込み地
4005	防風保安林	4206	水害防備保安林見込み地
4006	水害防備保安林	4207	潮害防備保安林見込み地
4007	潮害防備保安林	4208	干害防備保安林見込み地
4008	干害防備保安林	4209	防雪保安林見込み地
4009	防雪保安林	4210	防霧保安林見込み地
4010	防霧保安林	4211	なだれ防止保安林見込み地
4011	なだれ防止保安林	4212	落石防止保安林見込み地
4012	落石防止保安林	4213	防火保安林見込み地
4013	防火保安林	4214	魚つき保安林見込み地
4014	魚つき保安林	4215	航行目標保安林見込み地
4015	航行目標保安林	4216	保健保安林見込み地
4016	保健保安林	4217	風致保安林見込み地
4017	風致保安林		

2.5.2. 地震調査テーブル

地震調査テーブルでは、現行の調査票に記載のある地震調査に関する事項を登録する。

様式1-2 (地震)

山腹崩壊危険地区調査表 (地震・落石調査)

調査番号	204 - 1	地区名	大川原 (シチケド沢)	位置	黒石 市	大川原	(調査年月日)	平成29年1月13日
			[国]			宇蛙貝沢国有林 (1005林班)	(調査者)	(株) 森林テクノス

	メッシュ番号	活断層からの距離		傾斜		横断面形		斜面長		傾斜位置		斜面の状況		土層深		合計点数	補正点数
		km	点数	%	点数	度	点数	m	点数	%	点数	内 容	点数	m	点数		
地震調査	1	4.7	9	60	1	220	3	60	5	70	3	D:風化・変質・亀裂が発達した岩	3	0.5	4	28	28
	2	4.6	9	70	4	180	3	70	5	10	3	D:風化・変質・亀裂が発達した岩	3	0.5	4	31	31
	3	4.5	9	40	0	310	0	210	2	10	3	D:風化・変質・亀裂が発達した岩	3	0.5	4	21	21
	4	4.4	9	60	1	240	3	120	4	140	3	D:風化・変質・亀裂が発達した岩	3	0.5	4	27	27

図 2.5.2-1 山腹崩壊危険地区調査票における地震調査に関する事項（記載例）

地震調査テーブルの構造（テーブル定義）は、下表のとおり。

地震調査テーブルのテーブル定義						
項目名	主キー	重要項目	データ型	入力規則	備考	
リンク番号	●		数値型	数値入力		
メッシュ番号	●		数値型	数値入力		
活断層からの距離 (km)			数値型	数値入力 (単位: km)		
活断層からの距離 (点数)			数値型	数値入力		
傾斜 (%)			数値型	数値入力 (単位: %)		
傾斜 (点数)			数値型	数値入力		
横断面形 (度)			数値型	数値入力 (単位: 度)		
横断面形 (点数)			数値型	数値入力		
斜面長 (m)			数値型	数値入力 (単位: m)		
斜面長 (点数)			数値型	数値入力		
斜面位置 (%)			数値型	数値入力 (単位: %)		
斜面位置 (点数)			数値型	数値入力		
斜面の状況 (内容)			文字型	自由入力		
斜面の状況 (点数)			数値型	数値入力		
土層深 (m)			数値型	数値入力		
土層深 (点数)			数値型	数値入力		
合計点数			数値型	数値入力		
補正点数			数値型	数値入力		

☆ 必須項目について●・○の対応は次のとおり。

●	必須項目 (台帳に記載がない場合は、担当者に確認を行い、入力すること)
○	テーブルの中で重要性が高く、入力が望まれる項目 (台帳に記載がない場合は、空欄でも問題ない。)

ア) リンク番号

山腹崩壊危険地区テーブルのリンク番号と同じ番号を入力する。

イ) メッシュ番号

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）の記載順に、順次番号を附す。

ウ) 活断層からの距離（km）・活断層からの距離（点数）

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）に記載されたメッシュごとの活断層からの距離を入力する。

エ) 傾斜（％）、傾斜（点数）

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）に記載されたメッシュごとの傾斜情報を入力する。

オ) 横断面形（度）、横断面形（点数）

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）に記載されたメッシュごとの横断面形情報を入力する。

カ) 斜面長（m）、斜面長（点数）

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）に記載されたメッシュごとの斜面長情報を入力する。

キ) 斜面位置（％）、斜面位置（点数）

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）に記載されたメッシュごとの斜面位置を入力する。

ク) 斜面の状況（内容）、斜面の状況（点数）

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）に記載されたメッシュごとの斜面の状況を入力する。

ケ) 土層深 (m)、土層深 (点数)

山腹崩壊危険地区調査表 (地震調査) に記載されたメッシュごとの土層深を入力する。

コ) 合計点数、補正点数

山腹崩壊危険地区調査表 (地震調査) に記載されたメッシュごとの合計点数・補正点数を入力する。

2.5.3. 落石調査テーブル

落石調査テーブルでは、現行の調査票に記載のある落石調査に関する事項を登録する。

山腹崩壊危険地区調査票（落石調査）													
調査番号		地区名		管理		位置		（林班）		調査年月日		調査者	
メッシュ番号		落石の型		発生源の傾斜角		落下の高さ		安定状況		落下斜面の植生状況		地震の強さ	
		転石型 剥離型		度	点数	m	点数	種類	点数	種類	点数	種類	点数
落 石 調 査													

図 2.5.3-1 山腹崩壊危険地区調査票における落石調査に関する事項（入力用紙例）

落石調査テーブルの構造（テーブル定義）は、下表のとおり。

落石調査テーブルのテーブル定義

項目名	主キー	重要項目	データ型	入力規則
リンク番号	●	●	数値型	数値入力
メッシュ番号	●		数値型	数値入力
落石の型			文字型	自由入力
発生源の傾斜角(度)			数値型	数値入力
発生源の傾斜角(点数)			数値型	数値入力
落下の高さ(m)			数値型	数値入力
横断面形(点数)			数値型	数値入力
安定状況(種類)			文字型	自由入力
安定状況(点数)			数値型	数値入力
落下斜面の植生状況(種類)			文字型	自由入力
落下斜面の植生状況(点数)			数値型	数値入力
地震の強さ(種類)			文字型	自由入力
地震の強さ(点数)			数値型	数値入力
合計点数			数値型	数値入力
補正点数			数値型	数値入力

ア) リンク番号

山腹崩壊危険地区テーブルのリンク番号と同じ番号を入力する。

イ) メッシュ番号

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）の記載順に 1 から番号を附番する。

ウ) 落石の型

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）の記載された、落石の型を入力すること。

エ) 発生源の傾斜角（度）・発生源の傾斜角（点数）

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）の記載された発生源の傾斜角の情報を入力する。

オ) 落下の高さ（m）・落下の高さ（点数）

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）の記載された落下の高さ情報を入力する。

カ) 安定状況（種類）・安定状況（点数）

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）の記載された安定状況を入力する。

キ) 落下斜面の植生状況（種類）・落下斜面の植生状況（点数）

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）の記載された落下斜面の植生状況を入力する。

ク) 地震の強さ（種類）・地震の強さ（点数）

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）の記載された地震の強さを入力する。

ケ) 合計点数

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）の記載された合計点数を入力する。

コ) 補正点数

山腹崩壊危険地区調査表（地震調査）の記載された補正点数を入力する。

治山事業実施状況テーブルでは、現行の調査票に記載のある「治山事業実施状況」の内容（下図赤枠）を登録する。

[illegible]

治山事業実施状況テーブルの構造（テーブル定義）は、下表のとおり。

項目名	主キー	重要項目	データ型	入力規則	備考
リンク番号	●		数値型	数値入力	
治山事業実施状況No.	●		数値型	数値入力	
着手年度			文字型	自由入力	
事業区分(治山事業実施状況)			文字型	自由入力	
施設の種類・数量等(治山事業実施状況)			文字型	自由入力	
本工事費(治山事業実施状況)			数値型	数値入力(単位:千円)	

ア) リンク番号

山腹崩壊危険地区テーブルのリンク番号と同じ番号を入力する。

イ) 治山事業実施状況No.

治山事業実施状況の記載順に 1 から番号を附番する。

ウ) 着手年度

危険地区付属表に記載されている着手年度を入力する。入力は、「平成 19」、「昭和 23」というように年度は省略して入力する。

エ) 治山事業を実施した年度

危険地区付属表に記載されている治山事業を実施した年度を記入する。入力は、「平成 19」、「昭和 23」というように年度は省略して入力する。

オ) 事業区分（治山事業実施状況）

危険地区付属表に記載されている治山事業実施状況の事業区分を記入する。

カ) 施設の種類・数量等（治山事業実施状況）

危険地区付属表に記載されている治山事業実施状況の施設の種類・数量等を記入する。

キ) 本工事費（治山事業実施状況）

危険地区付属表に記載されている治山事業実施状況の本工事費を記入する。

実施経過（調査以降）テーブルでは、現行の調査票に記載のある「実施経過（調査以降）」の内容（下図赤枠）を登録する。

図 2.5.5-1 山腹崩壊危険地区調査票における「実施経過（調査以降）」（入力用紙例）

実施経過（調査以降） テーブルのテーブル定義

36

ア) リンク番号

山腹崩壊危険地区テーブルのリンク番号と同じ番号を入力する。

イ) 実施経過No.

実施経過（調査以降）の記載順に 1 から番号を附番する。

ウ) 事業区分（実施経過）

危険地区付属表に記載されている実施経過（調査以降）の事業区分を記入する。

エ) 施設の種類・数量等（実施経過）

危険地区付属表に記載されている実施経過（調査以降）の施設の種類・数量等を記入する。

オ) 本工事費（実施経過）

危険地区付属表に記載されている実施経過（調査以降）の本工事費（単位：千円）を記入する。

2.5.6. 災害歴テーブル

災害歴テーブルでは、現行の調査票に記載のある「災害歴」の内容（下図赤枠）を登録する。

様式 4

危険地区付属表

(危険地番号)

202 -

1)

(1) 治山事業実施状況

(着手年度: 平成9年度)

年度	事業区分	施設の種類・数量等	本工事費

(2) 実施経過 (調査以降)

年度	事業区分	施設の種類・数量等	本工事費 千円

(3) 災害歴

発生年月日	災害名・要因	被害の状況	被害額

(4) 噴火・泥流等

発生年月日	災害名・要因	被害の状況	被害額

図 2.5.6-1 山腹崩壊危険地区調査票における「災害歴」(入力用紙例)

災害歴テーブルの構造（テーブル定義）は、下表のとおり。

災害歴テーブルのテーブル定義

項目名	主キー	重要項目	データ型	入力規則	備考
リンク番号	●		数値型	数値入力	
災害歴No.	●		数値型	数値入力	
発生年月日(災害歴)			日付型	半角 9999/99/99形式	
災害名・要因(災害歴)			文字型	自由入力	
被害の状況(災害歴)			文字型	自由入力	
被害額(災害歴)			数値型	数値入力(単位:千円)	

ア) リンク番号

山腹崩壊危険地区テーブルのリンク番号と同じ番号を入力する。

イ) 災害歴No.

災害歴の記載順に 1 から番号を附番する。

ウ) 発生年月日（災害歴）

危険地区付属表に記載されている災害の発生年月日を日付形式（半角 9999/99/99 形式）で記入する。

エ) 災害名・要因（災害歴）

危険地区付属表に記載されている災害名、要因を記入する。

オ) 被害の状況（災害歴）

危険地区付属表に記載されている災害の被害状況を記入する。

カ) 被害額(災害歴)

危険地区付属表に記載されている災害の被害額（千円）を記入する。

2.5.7. 噴火・泥流歴テーブル

噴火・泥流歴テーブルでは、現行の調査票に記載のある「噴火・泥流歴」の内容（下図赤枠）を登録する。

様式4 危険地区付属表 (危険地番号 202 - 1)

(1) 治山事業実施状況 (着手年度: 平成9年度)

年度	事業区分	施設の種別・数量等	本工事費

(2) 実施経過 (調査以降)

年度	事業区分	施設の種別・数量等	本工事費 千円

(3) 災害歴

発生年月日	災害名・要因	被害の状況	被害額

(4) 噴火・泥流等

発生年月日	災害名・要因	被害の状況	被害額

危険地区見取図

図 2.5.7-1 山腹崩壊危険地区調査票における「噴火・泥流歴」（入力用紙例）

噴火・泥流歴テーブルの構造（テーブル定義）は、下表のとおり。

噴火・泥流歴テーブルのテーブル定義

項目名	主キー	重要項目	データ型	入力規則	備考
リンク番号	●		数値型	数値入力	
噴火・泥流歴No.	●		数値型	数値入力	
発生年月日(噴火・泥流歴)			日付型	半角 9999/99/99形式	
災害名・要因(噴火・泥流歴)			文字型	自由入力	
被害の状況(噴火・泥流歴)			文字型	自由入力	
被害額(噴火・泥流歴)			数値型	数値入力(単位:千円)	

ア) リンク番号

山腹崩壊危険地区テーブルのリンク番号と同じ番号を入力する。

イ) 噴火・泥流歴No.

噴火・泥流歴の記載順に 1 から番号を附番する。

ウ) 発生年月日(噴火・泥流歴)

危険地区付属表に記載されている噴火・泥流歴の発生年月日を日付形式(半角 9999/99/99 形式)で記入する。

エ) 災害名・要因(噴火・泥流歴)

危険地区付属表に記載されている噴火・泥流歴の災害名、要因を記入する。

オ) 被害の状況(噴火・泥流歴)

危険地区付属表に記載されている噴火・泥流歴の被害状況を記入する。

カ) 被害額(噴火・泥流歴)

危険地区付属表に記載されている噴火・泥流歴の被害額を記入する。